

第26回産業技術センター懇談会 懇談内容

(R4.3.7 オンラインと対面の併用開催)

懇談内容

- (1) 令和3年度活動報告
- (2) 令和2年度振り返り
- (3) 令和4年度に向けて

A委員

・食品業界は、県内に大企業、中小企業が多数ある。センターの利用は機器分析が多いと思う。中小企業に対しては、もっと幅広く、何をどうして良いのか更に踏み込んだアドバイスをしたらどうか。

副所長

・食品は官能検査が多く、今までは定性的であった。しかしながら、現在は味覚センサや臭気センサを利用して味や匂いを数値化、見える化し、自社製品のPRポイントを企業に理解頂くという形で技術支援を行っている。今後も、食品業界の意見を参考にしながら技術支援を進めていきたい。

B委員

・AIというキーワードが盛んに使われているが、その認知はまだベンダーに留まっており、ユーザにはどのように便利なのか十分に認知されていない。その点はR4.3.14開設するDSL（デジタルソリューションラボ）に期待している。

・DSLを拠点として、センターが県内企業のスマートファクトリー化のスタータ役の歯車になるとの説明があった。その歯車を動かすにはパワーを要するがどのように進めるのか。当社Sierの立場としては協力したい。

センター長

・ご協力頂けるということで大変ありがたい。Sierを通して広めていく、もしくはユーザに伴走する形で進めることを考えている。何に困っていて、何を支援すればデジタルソリューションを使ってもらえるようになるのか、今後Sier皆様に相談させて頂きたい。

C委員

・自社は自動車業界から医療業界に参入したが、センターにはサポインの申請支援等で助け

て頂いている。現在、技術のデジタル化の重要性が増しており、DSLはよい取り組みと思うが、中小企業への情報伝達についてどのように広めていくのか、この点は重要と考えている。

センター長

- ・HPで誰でも閲覧可能なところに、オープンソース等を公開する予定である。また、オープンソース等の情報だけでは誰でもつまづく難しいところがある。そのため、その対処情報等も公開し、誰でも使えるようにと考えている。
- ・コーディネータ4名で企業訪問し、県内企業に周知を広めていく。
- ・外部組織の力も借りていきたい。

D委員

- ・繊維産業の老朽化織機の部品再生の取り組みは、最先端の技術で伝統を救うものであり感銘した。
- ・当社は、センターとの共同研究を通して、自分たちの専門外の技術アドバイスを受けて発展してきた。当社のような中小企業がセンターを利用しやすい様に敷居を下げる、センターをPRする方法についてどのような考えか。

所長

- ・敷居を下げるために、サクセスストーリー集を作成した。また、どのような研究員がいるのか、わからないということもあった。サクセスストーリー集には動画QRを載せているため研究員に親しみを持って頂けるようになったと思う。

E委員

- ・令和4年度に向けての報告の中で、SDGsに関する取組事例を3例挙げていたが、それ以外についてもあるのか。

センター研究調整官

- ・3例以外にも、令和4年度以降は幅広い分野のSDGsに取り組んでいく。群馬県でSDGsコーチングプログラムを行っているので、参加企業にPRしていく。

F委員

- ・サクセスストーリー集の動画を拝見したが、非常に参考になった。事業環境が変化し、当社もEV化にシフトしており、当社にない技術を求められているため、今後も技術発掘にご協力頂きたい。

G委員

・サクセスストーリー集は素晴らしいと思う。中小企業は常にお金と人の確保が課題で、お金の面では補助金申請支援はありがたい。人については、I o T導入やリカレント教育等で効率化を進めたいので、引き続きご支援頂きたい。

H委員

・KANPAI!! GUNMAプロジェクトは食品に加えてお酒もPRして頂き素晴らしい取り組みであった。
・県内酒造メーカーが、品評会で上位を取っていることもセンターとの取組み効果である。
・世代交代については、センターと引き続き協力して行い、酒造業界を高めていきたい。
・分析についても、引き続きお願いしたい。

J委員

・中期計画で数値目標をやめ、視点をかえたことはマンネリ化を防ぐのによいと思う。
・医療機器分野は、遠隔医療や手書きデータ転送など、個々の装置からシステムでつながるようになってきた。DSL等を通して産業構造の変革に対しても技術支援をお願いしたい。

K委員

・サクセスストーリー集を拝読し、成功例がよくわかった。当社がセンターを紹介した企業も掲載されている。これからも支援をお願いしたい。

L委員

・当社の顧客には食品メーカーが多い。冷凍冷蔵の長期保存について支援頂きたい。
・老朽化織機の部品再生の取り組みは、旧式冷凍装置の部品再生にも使えると良い。
・設備業界の中小企業でも出来る、デジタル化に関して支援を期待している。

M委員

・抗ウイルス試験について、センターに企業からの相談はあるのか。

センター係長

・相談はある、昨年度から共同研究を始めている。

N委員

・抗ウイルス試験はどのレベルまで可能か。
・SDGsについて、リサイクルよりもアップサイクルが求められていると思うので、その

点を考えていくとよいかと思う。

- ・センターの保有技術について、わかり易く伝えるための事例紹介は重要と思う。

センター係長

- ・当面はインフルエンザ、ネコカリシウイルスである。

委員長

・委員の皆様のご協力のおかげで、活発且つ有意義な懇談会が開催できた。お礼を申し上げ閉会とする。

以上